

60th

全道造形教育研究大会

函館大会

0

創造!



th



ときめき!



感性と知性の出会い 心うるおす造形活動



実感!

主催：北海道造形教育連盟 函館市美術教育研究会
 主管：第60回全道造形教育研究大会 函館大会実行委員会
 後援：北海道教育委員会 函館市教育委員会
 渡島美術教育研究会 檜山造形教育研究会 函館市幼稚園協会



平成22年7月28日(水)

会場：函館市立昭和小学校
太陽の子幼稚園

第 60 回

全道造形教育研究大会 函館大会

大会テーマ「創造! ときめき! 実感!」

研究主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」



第60回の大会を記念して“60”をもとに、2人の子供たちが「創造! ときめき! 実感!」し、笑顔で造形活動に望んでいる姿を、「感性と知性の出会い」に重ねてイメージしている。頬の3つの円は、3つのときを表している。2010年夏、「HAKODATE」から子供たちの笑顔とともに、心うるおす造形活動の“風”を感じ取り、伝えてほしいと願っている。



遅しく・あたたかくを形にする 造形教育

北海道造形教育連盟

会長 菅原 清貴

造形教育連盟の還暦を記念する大会

2005年の函館での第55回大会から5年の年月が経ちました。この間、北海道造形教育連盟は全道18サークルの皆さんと共に造形教育を通し、本道の子どもの豊かな感性の伸長に責任を果たしてきたと思います。まずは、日々の実践の積み上げに深く感謝申し上げます。さて、戦後函館の地では、1954年の第4回大会を皮切りに、これまで造形研究大会を7回開催していただきました。北海道造形教育連盟60周年記念の年に、本道の玄関である函館で大会を開催できることは、本連盟の新たな門出にふさわしいものと思います。函館・渡島・檜山の道南地域における実践発表の場として、今大会の果たす役割は大変大きく、一層の充実した研究の深まりと広がりが期待されます。

子ども達が社会へ出る「旅支度」のひとつとしての造形教育

さて、20世紀は米国が世界の覇権を握った世紀といえます。本世紀となり同国を中心とした金融至上主義の破綻によりその国力の低下が顕著になってきました。それとともに中国を中心とした新興国の経済発展がめざましく、米国一国の支配は次第に薄らいできた感があります。このようなパラダイム転換が進行するなかで、我が国は「失われた20年」から立ち直ることができず、世界の中での存在感が低下しつつあることは否めません。また、化石燃料の大量消費にともなう地球温暖化がもたらす気象変動なども深刻で、益々、世界は不安定・不確実・複雑・不明瞭な時代に突入していこうとしています。

最近、NHKのラジオで聴いた話ですが、北海道で障がいを持つ人たちと共にチーズ作りをしている方が、マザー・テレサさんにお会いした時、次は発展途上国の子ども達を救う仕事をしたいとお話ししたそうです。その時彼女は、何を言っているのですか？というような顔で「世界中で最も心が飢えているのは、日本の子ども達ですよ。自国の子を救いなさい。」と諭されたそうです。雇用不安や先行きの見えない未曾有の財政赤字の中で、未来を失いつつある自国の矛盾が子ども達に影を落としています。

ある経済雑誌で「今こそかわいい子には旅」というコラムを目にしました。中部地区の私立学校の校長をされている中島尚正氏（東大工学部長、放送大学副学長等を経て、2009年に校長就任）が書かれたものです。その中で、“昨今、核家族化した家庭に育ち、近所づき合いも希薄になった。学寮で共同生活を営む機会も減った。そのためか、異質のものとの接触を避け、同質な人とばかりつき合うような若者が増えているように感じる。異質なものと交わりは時に苦労や面倒を伴う。だが、社会に出ると、異質なものとどう折り合いをつけていこうかが問われることになる。（中略）彼らは（最近の学生）他人と折り合いをつけることがあまりうまくないと思う。人を動かすには人の心を動かさねばならない。しかし、みていると論理だけに頼ってしまう言動がままある。気持ちに思いが至らないためか、些細なことでも他人とぶつかってしまう。そして、一度傷ついた関係を修復できず、結果として内にこもってしまう。人は、論理や理屈だけでは動かないと体感していないのは、異質なものと交わる経験が少なかったからではないか。”と述べています。中島先生はコラムの最後に、心配かもしれないが、子どもに厳しい経験「旅」を積ませる勇気が必要であると結んでいます。この「旅」での「厳しい経験」を果のあるものにするには、自らの考えを表現し、他の心を認めるあたたかな人格が不可欠です。「旅」支度のために学校があるならば、自らの表現に自信を持ち、他の表現をみとめる造形教育の力は、とても大切な一翼を担うものであると思います。表現することに躓いた時、教師や友達からの「助け舟」が、推進力となり「もう少し頑張ってみよう」という意欲につながります。教師と共に遅しく温かく生きることを大切にする学級経営が、自らの表現にとって重要な役割を果たします。

子ども達が造形活動を通し「楽しいなあ」「素敵だなあ」「美しいなあ」と呟く数を増やす活動を積み上げていく事が、「人間っていいな」と感じる事ができるなによりの「旅支度」ではないでしょうか。子ども達の創造する活動を通して、子ども自身も教師も造形活動を心の底から楽しむことができれば、その延長線の上に、必ずや混迷の時代を切り開く、ポジティブな生きる力が広がっていくものと考えています。

「創造！ときめき！実感！」が子ども達の未来をつくる函館の大会

今回、函館大会のテーマは“創造！ときめき！実感！”であり、研究主題は“感性と知性の出会い 心うるおす造形活動”と設定されています。子ども達の五感を大切に、温かな学級経営を土台とした「感性」と「知性」を関連付ける、函館流の指導が「創造・ときめき・実感」を具現化し、造形教育の重要性と存在価値を広く発信する大会となるでしょう。そして、それは本連盟60周年にふさわしい大会になるものと確信します。北海道の玄関である函館から発信する造形教育が本道教育に一層の力強いインパクトを与えるものと期待されます。

最後になりましたが、本研究大会にご尽力いただいた、函館市美術教育研究会、渡島美術教育研究会、檜山造形教育研究会、函館市幼稚園協会の皆様に、価値ある道南の研究を通し本道の造形教育のさらなる前進を実現していただいたことに、敬意と共に大きな感謝を申し上げます。



感性と知性の出会いから “つながる”大会を

第60回全道造形教育研究大会

函館大会実行委員長 中村 吉秀

第60回全道造形教育研究大会函館大会が、渡島美術教育研究会、檜山造形教育研究会の協力を得て道南の大会として開催できますことを心より御礼申し上げます。函館では5年ぶり8回目の開催となり、喜びと共に身の引きしめる思いで取り組んでまいりました。

平成23年度から小学校が、そして平成24年度から中学校が、「新学習指導要領」にもとづく図画工作科と美術科がそれぞれスタートします。そのことを念頭におき、これまでの実践の集積を生かしつつ新たな方向性を照射する節目の大会にしたいと考えております。

感性が、「豊かな知の基礎づくりに大きくかかわっている」といわれております。直接的にかかわり観察・対話し、そこから感動したり気づいたり、驚きを感じたりする体験がベースとなります。そして、興味・関心を広げ思考や想像力を巡らし、感じ取ったことや五感を働かせての表現・鑑賞活動による自己発信の喜びにより、情動全体を調和的に醸成させ、知識知や論理知の発達を促進していくことにつながります。

つまり、知が活性化され理解が深まり、想像が広がって継続性を持つようになるととらえ、感性と知性とを併せ備えた資質の育成をすすめることを重視し、本大会テーマ「創造！ときめき！実感！」そして研究主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」を設定しました。

未来を担う子どもたちの豊かな情操を培うために、感性と知性を意図的に出会う場面を、研究焦点化のために「かたちづくり」「ひびきあう」「つながる」3つの“とき”とし、具体的な「学習構築のポイント」（時・場・機会）を提示しました。このポイントが「公開される幼稚園2つ、小学校3つ、中学校3つの授業」の中で適切に絡み、効果的に組み込まれることによって、また言語活動や共通事項についても基本のおさえを確認し、「心うるおす造形活動」が表出すると考えました。

果たして、「心うるおす造形活動」が子どもたちの活動・表情から、見出すことができるでしょうか。研究への自信と不安を抱えながら、各分科会で明るい展望を感じさせる切り口で、研究協議が深まれば来年度の全国大会に“つながる”と思っています。

おわりになりましたが、本大会にかかわりまして様々なご支援、ご助言をいただきました北海道教育委員会、函館市教育委員会、他関係機関団体並びに会場校の皆様、各地からご参会いただいた皆様に深く敬意と感謝を申し上げます。



第60回全道造形教育研究大会 函館大会を祝して

函館市教育委員会教育長 多賀谷 智

この度、第60回全道造形教育研究大会が、平成17年度以来5年ぶりに、ここ函館を会場として開催されますことは、本市教育委員会といたしましても大きな喜びであり、全道各地からご参加くださいました多くの先生方に対しまして、心から歓迎申し上げます。

北海道造形教育連盟が、昭和25年の第1回研究大会以来、子どもの豊かな情操を育み、創作や表現活動の喜びを深く味わわせることを目的に研究実践を重ね、本道の教育推進の充実・発展に重要な役割を果たしてこられましたことに、心から敬意を表します。

さて、今日、学校教育においては、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」の育成がますます重要になっております。とりわけ、イメージをふくらませて楽しみながら作る活動や、生活や環境を美しくする造形のよさを実感し、作品のよさを味わう鑑賞などの造形教育は、豊かな感性や情緒を培う大きな役割を担っておりますことから、図画工作や美術の重要性が改めて注目されているものと受け止めております。

こうした中で、本研究大会が「感性と知性の出会い心うるおす造形活動」を研究主題として掲げ、研究授業や全道から参集した先生方の日常実践の交流を通して、研究を深められますことは誠に意義深いものであります。私どもといたしましても、参加された先生方の熱意で実り多い大会となり、本道の造形教育の充実・発展に寄与するものとなるよう、その成果に注目しておりますし、併せて本市の今後の教育にも多くのご示唆をいただけるものと期待しているところであります。

結びに、本研究大会の企画運営に当たられました関係者の皆様のご尽力に対しまして、心から感謝申し上げますとともに、北海道造形教育連盟、函館市美術教育研究会の一層の発展を祈念申し上げ、お祝いの挨拶といたします。



子どものより良き変容が見られる 大会となることを願って

渡島美術教育研究会会長 黒田 雅世

また、函館に全道造形教育研究大会がめぐってきました。学習指導要領の移行期や、教育改革のただ中に開催された過去の大会は、そのときそのときの社会情勢を色濃く反映していたと記憶しています。今回は、また新学習指導要領移行期であります。北海道造形教育連盟の目指す「自立と共生の造形教育」が、函館大会の研究主題「感性と知性の出会い」に収斂されていくことを切に願うものであります。

平成21年度の函館市美術教育研究会の実践集録には2つの授業記録の他に10を超える実践が掲載されています。これら一つ一つの実践に触れ、児童・生徒の主体的な造形意欲喚起に情熱を傾ける教師の努力に胸が熱くなりました。

渡島美術教育研究会におきましても「子どもの自己実現」を、「心うるおす造形活動」のめあてとして研究を推進しております。決して派手さや目新しさのある授業公開研究ではありませんが、児童・生徒の側に立った真摯な教材研究や、心を打つ指導実践が積み重ねられております。

本大会においても、緻密な研究理論が組み立てられ、多くの論議が重ねられました。それ故にこそ、決して理論と言葉に流されぬ優れた指導実践に裏付けられた研究大会になると期待しております。児童・生徒がそれぞれに自分自身を発見し、主体的に創造体験を積み、次なる表現活動への意欲を高めることができこそその造形教育であります。

本大会が準備にかかわられた多くの教師の厚い思いを受けて、全道各地からご参集なされた皆様の心に残る大会となることを願っております。

そして、子ども自身が本大会において多くのより良き学びを体験できることを願っております。



第60回全道造形教育研究大会 函館大会の開催にあたって

檜山造形教育研究会会長 茶碗谷 稔

夜景と教会群を観光名所と誇る函館市において、第60回全道造形教育研究大会を盛大に開催できますことは、私どもにとりまして大きな喜びであり、ご参会される皆様に心より感謝申し上げます。

本大会は、函館市美術教育研究会、渡島美術教育研究会、そして檜山造形教育研究会が連携・協力し「創造！ときめき！実感！～感性と知性の出会い 心をうるおす造形活動～」を大会テーマ、研究主題に開催されます。

さて、造形活動を通して、「創造的」な力を育むということが、図工美術科の必要とされる一般的な見方でしょう。新学習指導要領の共通事項で示された「形・色などの特徴をとらえ、自分なりのイメージをつくりだす」等の文言からも、対象の形や色などをとらえ、試行錯誤しながら自分なりに新しいものを作り出す力を育む教科であることがわかります。

そのような理念の図工美術科は、今の時代、授業時数で見れば、存続さえ危うい教科であるといえます。PISA等による国際的な学力検査の結果から、大きく揺れ動いている昨今の教育界全体の情勢があり、聞こえは悪いですが受験教科が大切にされる状況などが原因といえるでしょう。しかし、一方、現代の子どもたちの実態として「夢が持てない・主体的に行動しない・自分に自信がない・他者に関心を示さない」等の悲劇的な見方もあるとされます。このような子どもたちの実態を、今の教育の流れで、はたして改善できるのでしょうか。

何が起きるか予測不可能といわれる時代であります。子どもたちに必要な資質能力として、今ある知識・技能を取り入れるだけでなく、豊かな発想で新しい時代をつくる力、すなわち「創造力」が求められています。このことは、これまで図工美術科で大切にしてきた、「みる」力の重要性が、改めて問われることといえるのではないのでしょうか。図工美術科のいう「みる」こととは、造形活動を通して、対象を多面的な方向からみて、自己を更新することです。すなわち、「みかた」をかえるということです。そのことは「当たり前とされていることを視点を変えて考えてみる」「一般的に言われていることを本当にそうなのか別の角度から考える」そのような視点で考える力を育てることです。そう考えますと、今回の大会は大変重要な役割を担っていると同時に期待も大きいと思われれます。

最後になりますが、本大会の開催にあたり、御指導、御支援を賜りました北海道教育委員会、函館市教育委員会並びに教育関係機関、会場校そして大会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。開催にあたっての挨拶といたします。

大会日程



第60回 全道造形教育研究大会函館大会

■北海道造形教育連盟研究主題

“わたしを創る” ～自立と共生の造形教育をめざして～

■函館大会テーマ

創造！ ときめき！ 実感！

◆研究主題

感性と知性の出会い 心うるおす造形活動

■日 程

7月28日（水）

- 受付・開会式・全体会・講演・ネットワーク会議（函館市立昭和小学校）
- 公開授業・公開保育（函館市立昭和小学校・太陽の子幼稚園）
- 分科会（函館市立昭和小学校）
- 函館・渡島・檜山児童生徒美術展（函館市立昭和小学校）
- レセプション・閉会式（五島軒本店）

8:20	8:50	9:50	11:00	12:30	13:30	16:00	18:00
受 付	開会式 全体会 概要説明	9:55 10:45 公開授業（中）	講 演	昼 食 アトラクション （函館野外劇）	分科会 研究協議	移 動	レセプション 閉会式
		10:05 10:50 公開保育（幼）					
		10:00 10:45 公開授業（小）			13:00 15:00 ネットワーク会議		

■講 演 演 題

『子どもの世界をとらえるまなざし』

講 師

国立教育政策研究所教育課程センター教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

奥村高明氏

■主 催 北海道造形教育連盟 函館市美術教育研究会

■主 管 第60回全道造形教育研究大会函館大会実行委員会

■後 援 北海道教育委員会 函館市教育委員会
渡島美術教育研究会 檜山造形教育研究会 函館市幼稚園協会

■会 期 平成22年（2010年）7月28日（水）

■会 場 函館市立昭和小学校 太陽の子幼稚園
五島軒本店（レセプション）

開 会 式

	司会 函館大会総務	横岸澤英二
1. 開会のことば	函館大会副実行委員長	黒田 雅世
2. 挨拶	北海道造形教育連盟会長	菅原 清貴
	函館大会実行委員長	中村 吉秀
3. 祝辞	北海道教育庁渡島教育局長	和田 基興 様
	函館市教育委員会教育長	多賀谷 智 様
4. 来賓紹介	函館大会副実行委員長	土谷 敬
5. 研究概要説明	北海道造形教育連盟研究部長	湯浅 大吾
	函館大会研究部長	西館 純
6. 閉式のことば	函館大会副実行委員長	土谷 敬

閉 会 式

	司会 函館大会副実行委員長	仲井 靖典
1. 閉式のことば	函館大会副実行委員長	黒田 雅世
2. 挨拶	北海道造形教育連盟会長	菅原 清貴
3. 連盟旗引継	函館 → 札幌	
4. 閉会のことば	函館大会副実行委員長	土谷 敬

記念講演

◇講師
奥村高明氏



◇演題

『子どもの世界を とらえるまなざし』

私たち学校教育に関わる人々は長く授業研究会という営みを続けてきました。研究授業のために指導案を作成し、授業参観を行って、協議会を実施してきました。そして、目の前の子どもの姿や作品から、子どもが何を感じ、何を考えたのかをとらえ、それを根拠に指導の改善を考えてきました。このような実践を繰り返しながら、私たちはいつのまにか子どもの世界をとらえるまなざしを持つようになっていきます。ただ、それは十分に自覚されたものとはいえ、また経験則が多くを占めています。本講演では、目の前の子どもの姿をどのように見るのか、作品をどのように読むのかということ、全国の実践をもとに具体的に整理していこうと思います。それによって、美術教育が材料や用具、美術館、教科書など多くの資源で生態系のように成立していることを確認し、美術教育の成果や課題などについて再考してみたいと思います。

プロフィール

奥村高明 (おくむら・たかあき)

略歴：宮崎県内の小中学校教諭，附属小学校教官，宮崎県立美術館学芸課主査を経て2005年より文部科学省初等中等局教育課程課及び国立教育政策研究所調査官，2008年告示の小学校学習指導要領図画工作や2010年通知の学習指導要録の改訂に携わり，これまでに各都道府県政令市等で美術教育に関する講演や研修会指導を行っている。H18～22年度には国立美術館教育普及事業委員会座長として美術館を活用した鑑賞教育充実のための指導者研修に関わる。著書論文多数。近著に「子どもの絵の見方～子どもの世界を鑑賞するまなざし」東洋館出版(2010)，「造形活動における相互行為分析の視座」日本美術教育連合(2009)，上野行一と共著で「モナリザは怒っている～鑑賞する子どものまなざし」淡交社(2008)，「テートの美術館活用術～鑑賞教育の手引き～」美術出版社(出版準備中)がある。

北海道造形連盟 研究概要

“わたしを創る” ～自立と共生の造形教育をめざして～

TAEM 北海道物語 in 函館劇場の幕開けです

北海道造形教育連盟研究部長 湯浅大吾



創造的な想像力を引き出す造形教育を

北海道造形連盟の顧問会に参加したときのことです。顧問の先輩から「最近の子どもたちからは、創造的な技能の衰えを感じる」というお話がありました。そのとき、私は小学校2年生の子どもたちと生活科で藻岩山に行き、集めた落ち葉や木の実で表現活動に取り組むという横断的に取り組んだ学習のことを思い出しました。様々な色や形の造形美を楽しみながら、嬉々として落ち葉を集める子どもを見てふと考えました。「平安や江戸の子どもも同じことを感じ、同じことをしたのではないかと。創造的な技能は、「こう表したい」という創造の意志がベースになくは、その獲得や高まりは期待できません。つまり、子どもが衰えたのではなく、子どもの中に本来備わっている「感性」を造形教育の中で引き出せていないということが問題なのだと考えます。

また、顧問の先輩からは、「研究は、子ども理解を深め、子どもに目を向けることが大切」との指摘を受けました。

“わたしを創る” ～自立と共生の造形教育をめざして～

この北海道造形教育連盟の研究主題はまさに、どのような学びが保証されると子どもの創造的な想像力は働き出し、創造の意志をもって動き出すのかを探究するものです。自分にとって意味あるものを創り出す喜びを味わうために働く感性は、“わたし”の中のみで完結する内部能力ではなく、他とつながり合ってこそ生きて働く力となっていくと考えます。本研究では、“わたし”にとっての意味が他と関わりをもつことによって、価値として共有化されていく学び合いにも目を向けていきたいと思えます。

造形することを通して教育としてどんな生きる力を子どもに育むのか。交流を深めお互いに高め合う中で、各地区サークルの具体的な取り組みから検証され、そして、日常の授業の中で一般化されていくことをめざしていきます。

函館大会では、TEAM 北海道の一員として温かいまなざしをもって子どもを見つめ、そして、子どものために厳しいまなざしをもって授業を見つめようではありませんか。分科会では、参会者一人一人の見方・感じ方・考え方に基づいた授業観が交わされることを期待しています。そのことが、これまで大会作りに尽力されてきた函館地区の皆さんへの真の意味での感謝の意を伝えることにつながり、そして、北海道の造形教育を高めていくことにもつながっていくと考えます。交流を通して帰るお土産を創り出し、お互いに渡し合うそんな大会になればいいなと思っています。



パワーあふれる函館に期待するもの

珍しく市内に雪がたくさん積もっていた今年の2月に、函館大会に向けた授業者・提言者を対象にした研究説明会に参加する機会を得ました。函館市内のみならず近隣から他校種にわたる多くの参加がありました。

大会テーマ

創造！ときめき！実感！

研究主題

感性と知性の出会い 心うるおす造形活動

瀧本事務局長・西館研究部長の研究概要説明では、参加者との熱い議論が交わされました。工藤北海道教育委員会指導主事の講演会では、新学習指導要領に込められた具体的な授業像が分かりやすく示されました。参加された皆さんからは、進むべき方向が共有化された一体感が伝わってきました。

そのあと参加させてもらった新年会では、参会したOB方の数の多さに驚かされました。「裏方のことは心配するな。大会づくりに専念しなさい。」というOBの方々の言葉に、頼もしさと函館美術教育研究会への愛着の深さを感じました。中村会長からは「先達たちが築いてきた道南の造形教育は、地域のもので支えていく。大会はその担い手たちが逞しく育っていく機会にしたい。」という思いもお聞きすることができました。

美術教育を取り巻く環境は、ますます厳しさを増しています。会長のもと大会づくりを通して函館地域の皆さんが、手を携え心を一にすることで地域の造形教育を支えていこうという力強い意志を感じました。これは、同じ問題を抱える北海道や全国の大会参加者に勇気を与えることでしょう。

開港150年の歴史ある港町函館の地で、造形教育の未来を多いに語り合おうではありませんか。

これまで大会づくりにご尽力されてきた皆さんに、心より尊敬と感謝の意を表したいと思います。

来るべき全造連・日美連共同開催による北海道大会に向けて

函館大会には、来年行われる全造連と日美連の共同開催による北海道大会に向けて、両団体の代表の方も参加されます。私はその折に、北海道・全造連・日美連から各20名、計60名ほどの助言者と提言者の選出をお願いする予定です。それに伴い、全国大会用のメーリングリストを開設し、日常的に交流を深め関係を密にし、一体感のある大会にしたいと考えています。

昨年の旭川大会でのことです。四国のある県から参加された女性の先生がこんなことをおっしゃっていました。「皆さんの様子を見てみると本当に仲が良い。皆さんは普段別々の地域で勤務していらっしゃるのでしょうか。私の県にもやる気のある若者がいるが、点在していてなかなかつながりがもてないでいる。北海道が羨ましい。」と。

広大な北の大地で築き上げることができたチーム北海道のつながりを、参加した全国の皆さんにも広げていく。地域や校種を超えて造形教育に携わる私たちがつながりを深め、子どもたちのための造形教育を明るい未来へつなげていく。是非、そんな大会にしたいと考えています。

また、9月3日には、札幌円山小学校で全国大会プレ大会と北海道造形教育連盟60周年を祝う会を開催します。万障繰り合わせてどうぞご参会ください。

◆はじめに

「知識基盤社会」の時代と言われているが、周知のとおり人は知識だけでは生きていくことはできない。感性という人間特有の資質、能力を用いることで、人間関係や情緒を育み、豊かな文化を築いてきた。造形教育もまた、人々や様々な事象と関わり、豊かな感性や知性を育み、心豊かな生活への基盤を創造してきたといえよう。

私たちは今年、歴史ある60回目の全道造形教育研究大会を迎えることができた。この間、様々な教育の潮流があり、その中で造形教育のあり方が論じられてきた。そして、今回の学習指導要領の改訂にともない、新たな意識のもとで学習指導のあり方を求めていくこととなった。

私たちは、人間の存在と造形教育のかかわりの重要性をその根底においてしっかりと見つめ、生きる力を育む図画工作・美術教育を創造していかなくてはならない。学習指導を通して知性や感性を習得し、活用することから、学ぶことに喜びを感じ、美しさを生活に取り入れ、創造的で豊かに生活していくことができる子供たちを育てていきたいと願っている。

◆大会テーマ「創造! ときめき! 実感!」

前回の函館大会では、地域空間を造形的な素材ととらえ、感性を刺激し、個性を伸長させるという視点から、図画工作・美術の学習指導や地域とのかかわりを柱として研究を進めてきた。

今大会では、その成果と課題をふまえた上で、人間にとって不可欠であり、造形教育の原動力となる「感性」や「知性」を有機的に関連づけた研究実践を行うこととした。

そして、子供たちと教師たちの学習の根幹となる共通のテーマとして、

- 「創造!」 (自分なりの美しさをつくりだそうとすること)
- 「ときめき!」 (自らの造形体験や相互の認め合いから得られる喜び)
- 「実感!」 (達成感や造形活動が実生活で生かされることの体感)



を設定し、造形的な資質や能力の育成を図っていきたいと考えている。

◆研究主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」

私たちは、研究主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」において、平成23年度より順次実施されていく新学習指導要領の内容や教科の目標を具現化する学習を通じて、人間特有の感性と知性を重視し、それらを働かせ、相互に影響させていくような造形教育の在り方を探っていきたいと考えている。新学習指導要領では、「生きる力」の理念を継承し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、それらを習得・活用・探究する授業づくりの充実による確かな学力の育成を目指している。そこで、本大会では、図画工作・美術での感性と知性の習得や活用を基盤にした造形活動を念頭に置き、自分たちの生活の中で、図画工作・美術や文化を自主的に探究していく意欲や姿勢、態度を育てていきたい。

研究主題を通じ、子供たちが自ら創造し、ときめき、実感できる図画工作・美術を学習することで、子供たち一人一人の人間性を磨き、生涯にわたって必要とされる豊かな情操を培っていくことができると考えている。

○感性 様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを直接的に感じ取る力

○知性 知識や経験に照らして論理的・類推的に思考し、判断する力

○心うるおす造形活動 とは

学習において、感性と知性の出会いを具体性をもって意図的、有機的に設定し、子供たちがもっている感性や知性を揺さぶり、心に働きかけていくこと



- 自ら喜び、達成感、連帯感、共有感などを実感できる。
- 主体的かつ意欲的に造形活動へ関わることができる。
- 豊かな想像力や表現力を身につける。
- 作品のよさや美しさを感じ取り、味わい、理解を深める。

◆研究内容

(1) 感性と知性が出会う『3つのとき』の設定

感性や知性は、造形活動の両輪として機能することで、その特性を高めていくことができる。そこで、図画工作・美術の学習内容を「感性と知性が出会う3つのとき」に整理し、研究の視点とした。

【視点1】かたちづくる とき

○形や色や材料などにかかわって、発想・構想し、創造的な技能を用いるとき

- ・形や色などを用いてイメージする。
- ・形や色などを用いてテーマを発想・構想する。
- ・材料や用具の適切な取り扱い方や技法について理解し身につける。
- ・共通事項に注目した題材（色、形、イメージなどの美的関係性）で学習する。

【視点2】ひびきあう とき

○自他の活動や作品鑑賞を通し、美しさの意味や価値に気づき、共感しあうとき

- ・自分なりの美的、造形的な見方を発見し、認識する。
- ・自他の活動や作品鑑賞を通して、美的価値を発見、創出、追究する。
- ・相互の感じ方の比較や受容・批評などをする。

【視点3】つながる とき

○人、もの、暮らしをもとにした表現や実生活とかかわるとき

- ・友だち、家族、地域人材などに関わる学習
- ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン、機能性や生活などにかかわる表現や探究的学習
- ・自然、歴史、伝統、文化、国際理解などに関わる表現や探究的学習

(2) 心うるおす造形活動へのステップ

以下の3つのステップをふまえ、学習を構築し、心うるおす造形活動に迫っていく。

●ステップ1

「感性と知性の出会いのためのアプローチ」の導入 ～ 感性と知性の出会いをどのようにとらえるか

- ・既習の知識・技能への支援と新たな知識・技能の提示、教示
- ・知的好奇心への刺激、揺さぶり（ワークシート、ICT、人材活用、学習形態や場の工夫など）
- ・五感等への刺激、揺さぶり（見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触れる、体感する）
- ・発想・構想・表現の仕方の提示・アドバイス（スキルの提示、教示など）
- ・情意面へのサポート（賞賛・励ましなどの声かけや助言）
- ・感性・知性を育むトレーニング（視覚、知覚への働きかけ、発想・構想のスキルアップ）

●ステップ2

学習構築ポイントの設定 ～ ステップ1のための具体的な学習構築ポイント

- ・新学習指導要領の内容と、「3つのとき」との関連から、育みたい資質・能力を明らかにする。
- ・「感性・知性の出会いのためのアプローチ」をもとに、「学習構築ポイント」を焦点化して、学習に具体性をもって、意図的、有機的に設定して資質・能力を育てていく。
- ・子供たちの実態に応じて「学習構築ポイント」を活用し、子供たちの心に働きかける。

●時	①学習内容に応じた時間の保証	(継続的な活動, 試行錯誤, 交流, 自己評価 等)
	②題材・ワークシート等の提示のタイミング	(動機付け, 関心・意欲の継続, 向上)
●場	③活動の場の設定	(教室, 体育館, 野外等の学習の場の確保)
	④美術館などの外部施設の利用	(新しい感性・知性との出会い・経験・感動)
	⑤場に応じた学習形態の工夫	(一斉, グループ, 個別 等)
●機会	⑥魅力的な題材・材料との出会い	(新しい体験・驚き・ときめき等)
	⑦ICTの活用	(PC VIDEO デジカメ プロジェクター 等)
	⑧ビジュアルコミュニケーションの習得・活用 (つながる・ひろがる・わかりあう)	
	⑨人材の活用・出会い	(他人の感性・知性・技能との出会い)

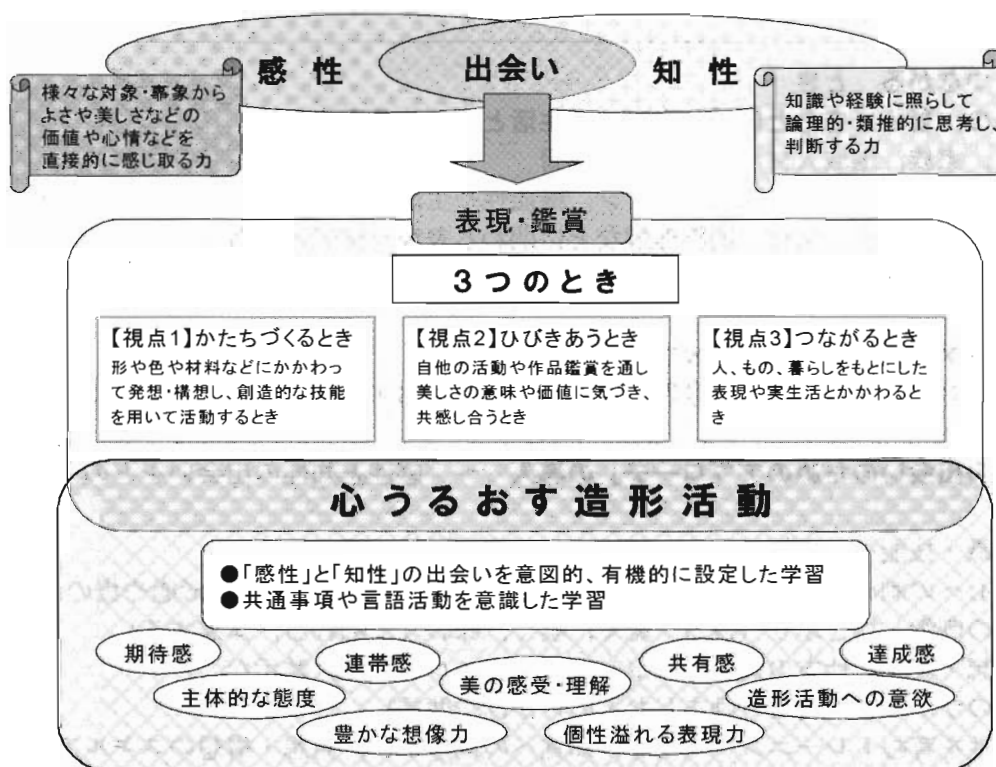
●ステップ3

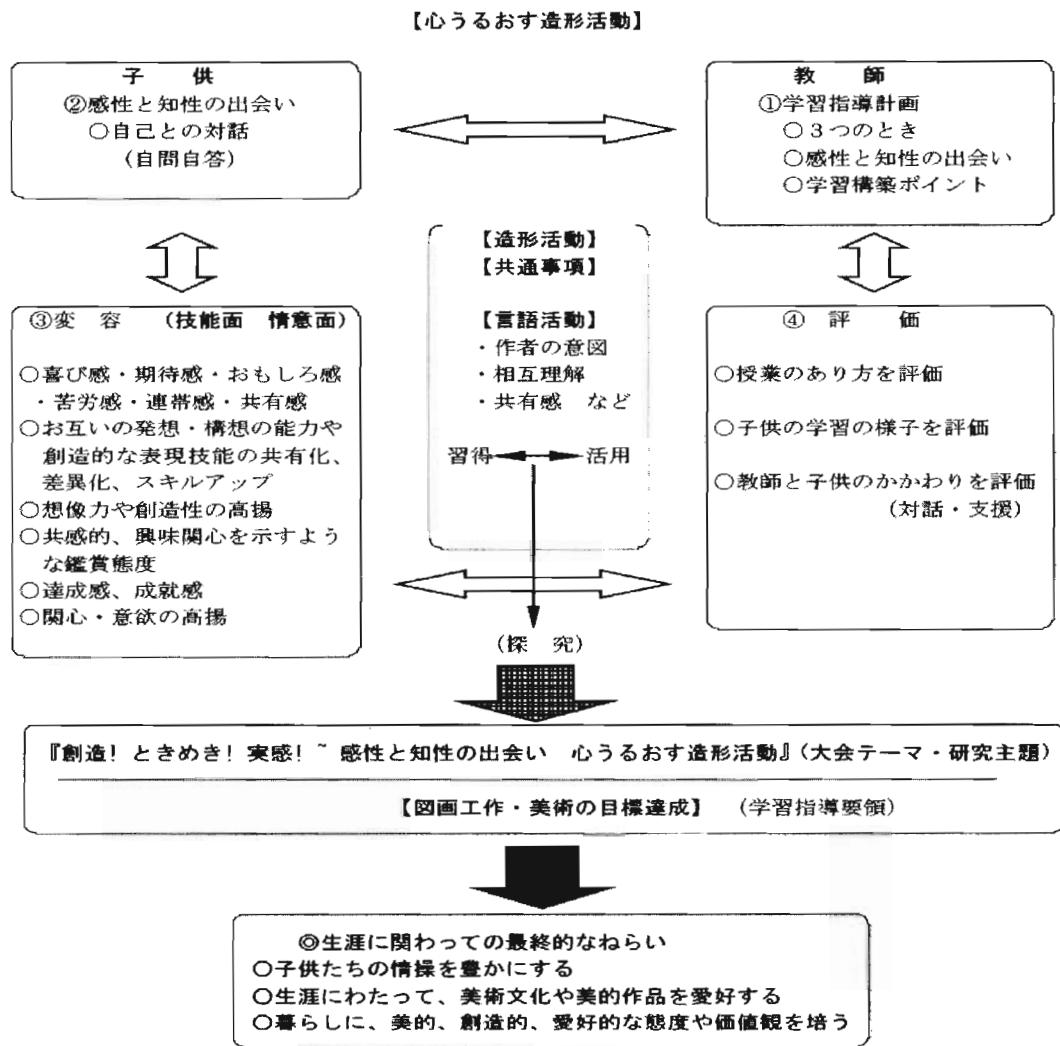
共通事項や言語活動を意識した学習 ～ ステップ2をより効果的なものにするために

- ・発達段階や題材に応じて共通事項の連続性を意識して学習を進める。
- ・対話や質問など言語活動を意識して学習に取り入れる。

- 言語活動 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「話し合うこと」、「伝え合うこと」などの活動を、学習構築ポイントに活用し、心うるおす造形活動へと導いていく。
- 共通事項 小中学校を通して色、形、イメージなどの基礎的能力を習得・活用していくという連続性を意識して、必要に応じて学習構築ポイントの中に内容や方法を組み入れていく。

【 研究の全体構想図 】





(3) 図画工作・美術における習得・活用・探究に関して

本研究会では、新指導要領でふれている「習得」「活用」を、図画工作・美術では、下記のようにとらえ、「心うるおす造形活動」を通じて「習得」「活用」していくことができるだろうと考えている。

また、さらに自分たちの生活の中で、図画工作・美術や文化を自主的に探究していく意欲や姿勢、態度を目指していくことができればと願っている。

- 習得 基礎的・基本的な色や形などによるイメージの発想、表現技能、鑑賞方法を学び獲得すること
- 活用 学んだ内容や表現、技能を作品づくりや鑑賞、生活に生かすこと
- 探究 習得したことを活用し、自主的に自分や他の人の感じ方や表現の仕方を探ったり、美術文化にふれようとする意欲と実践的態度

(4) 「表現」と「図画工作」「美術」のつながりを意識して

- ・材料(素材、色、形)や場の体験、行為に関して、五感や身体を通して揺さぶっていく。
- ・色、形、イメージなど(共通事項)につながる環境の構成を大切にしていく。

○小学校・中学校から見る「領域」「表現」

- ・幼稚園の実践した題材に関連する共通事項は何か。
- ・園児たちの色、形、イメージなどがどのような手段や体験を通じて展開されているか。

○幼稚園から見る「図画工作」「美術」

- ・小学校ではどんな造形遊びをしているのか、幼稚園での表現や体験の内容と比較してみる。
- ・小学校の子供の色、形、イメージなどがどのような手段や活動を通じて展開されているか。
- ・中学校美術のベースにある共通事項は何か。

(5) 「研究内容」と「新学習指導要領」「教育要領」の関連表

視 点	かたちづくる とき	ひびきあう とき	つながる とき
内 容	・形や色や材料などにかかわって、 発想・構想し、創造的な技能を用 いるとき	・自他の活動や作品鑑賞を通し、 美しさの意味や価値に気づき、 共感しあうとき	・人、もの、暮らしをもとにした 表現や実生活とかかわるとき
関連す る授業 題 材	・イメージに関わる題材 ・材料に関わる題材 ・対象物に関わる題材 ・身体に関わる題材	・美術館などの利用、連携 ・美術文化と表現に関わる題材 ・相互作品鑑賞	・共同制作 ・生活や地域文化 ・伝統と創造的にかかわっていく 題材 ・外部講師を活用した題材 ・表現（デザイン・工芸）および 鑑賞に関わる複合題材
感性と 知性の 出会い のため のアップ ローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識・技能への支援と新たな知識・技能の提示、教示 ・知的好奇心への刺激、揺さぶり ・五感等への刺激、揺さぶり ・発想・構想・表現の仕方の提示・アドバイス ・情意面へのサポート ・感性・知性を育むトレーニング 		
学習構 築ポイ ント	<ul style="list-style-type: none"> ● 時 ①学習内容に応じた時間の保証 (継続的な活動、試行錯誤、交流、自己評価 等) ②題材等の提示のタイミング (動機付け、関心・意欲の継続、向上) ● 場 ③活動の場の設定 (教室、体育館、野外等の学習の場の確保) ④美術館などの外部施設の利用 (新しい感性・知性との出会い・経験・感動) ⑤場に応じた学習形態の工夫 (一斉、グループ、個別 等) ● 機会 ⑥魅力的な題材・材料との出会い (新しい体験・驚き・ときめき等) ⑦ICTの活用 (PC VIDEO デジカメ プロジェクター 等) ⑧ビジュアルコミュニケーションの習得・活用 (つながる・ひろがる・わかりあう) ⑨人材の活用・出会い (他人の感性・知性・技能との出会い) 		
関連す る言語 活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆イメージや思考過程、構想 ◆作品の意図や工夫点・困難点 ◆作品のよさや美しさ ◆作者の意図、他者の感じ方 ◆図工・美術について自分の思い◆外部講師や地域の人の話 ◆図画工作・美術科の用語などを 話す・聞く、書く、話し合う、伝え合う など 		
共通事 項	◆発達段階や題材に応じて共通事項の連続性を意識した学習		
教育要 領	<p>○感性と表現に関する領域「表現」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。 (1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ (2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ (3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ 		
新学 習指 導要 領の 要点 等	<p>A 表現 - (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形遊び ・材料や場所、その過程 ・行為 《創造的な技能》 《発想や構想の能力》 	<p>A 表現 - (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵・工作 ・立体 など 《創造的な技能》 《発想や構想の能力》 	<p>B 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よさや美しさを感じ取る ・身の回りの作品・児童作品・材料 ・日用品 伝統的な玩具 ・日本および諸外国の美術 ・暮らしの中の作品・美術館・博物館 など
	<p>○低学年 形や色、質感など 感覚や活動と一体であるような自分のイメージ</p> <p>○中学年 形や色、組み合わせなど 形や色などの感じを基に自分のイメージ</p> <p>○高学年 形や色、動きや奥行きなど造形的な特徴、造形的な特徴を基に自分のイメージ</p> <p>●中学校 形や色彩、材料、光などの性質 もたらず感情の理解 形や色彩の特徴などを基にした対象のイメージの把握</p>		
	<p>A 表現 - (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことや考えたことを基に発想・構想 絵や彫刻などを通して 	<p>A 表現 - (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える、使うなど目的や機能を考え発想 ・構想 デザイン・工芸などを通して 	<p>A 表現 - (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫 ・見通しをもって表現する技能
	<p>B 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさ、美しさ、見方や感じ方 ・生活を美しく豊かにする美術の働き ・美と機能性 ・価値意識 ・日本および諸外国の美術の文化遺産 ・伝統と文化環境・美術館・博物館 など 		
	<p>言語活動の重視</p> <p>《造形への関心・意欲・態度》</p>		

公開授業

校種・学年	分科会名	題 材 名	授 業 者	
幼稚園	年中	かたちづくりとき	夏だ！海だ！！	稲垣 絵梨 (太陽の子幼稚園)
	年長	ひびきあうとき	キャンプだホイ！！	小川原 愛 (太陽の子幼稚園)
小学校	1年	かたちづくりとき	ともだち いっぱい	堂前 智子 (函館市立昭和小)
	4年	ひびきあうとき	光でうつし出す世界より	水島 賢久 (函館市立中の沢小)
	1年	つながるとき	わくわくこうせつえん	中谷 文武 (函館市立高丘小)
中学校	1年	かたちづくりとき	100色色相環に挑戦！！	佐々木 壮一 (函館市立的場中)
	3年	ひびきあうとき	心を動かす形をつくろう	九千房 政光 (函館市立旭岡中)
	3年	つながるとき	母校の歴史に名を刻め！ <small>※50周年コメントを添える</small>	櫻井 純 (函館市立深堀中)

分科会

番号	分科会名	提言者	助言者	司会者	記録者
1	幼稚園 かたちづくりとき ひびきあうとき つながるとき	吉野 貴子 (函館市立戸井幼稚園)	小平 征雄 (道教育大学函館校教授) 佐藤 篤正 (亀田ゆたか幼稚園長)	小林 恵理子 (道教育大学 附属函館幼稚園)	阿部 真琴 (函館市立五稜中)
2	小学校 かたちづくりとき	山田 光 (函館市立あさひ小) 松田 恭子 (道教育大学附属函館小)	村國 壽英 (八雲町立相沼小校長) 谷口 光伸 (江差町立南が丘小教頭)	佐郷谷 滋 (函館市立中の沢小)	西 貴子 (函館市立千代ヶ岱小)
3	小学校 ひびきあうとき	小笠原 博子 (函館市立あさひ小) 橋本 英子 (帯広市立広陽小)	細川 敬太郎 (北斗市立久根別小校長) 篠原 寛 (札幌市立西小校長)	三品 充子 (函館市立中央小)	久保杉 由佳 (函館市立あさひ小)
4	小学校 つながるとき	赤坂 巖男 (函館市立中の沢小) 石岡 寿子 (松前町立白神小)	山本 良子 (函館市教育委員会 教育指導課指導主事) 船橋 恭二 (七飯町立大中山小教頭)	高島 純 (七飯町立大沼中 鈴蘭谷分校)	後藤 博子 (函館市立上湯川小)
5	中学校 かたちづくりとき	木村 麻岐 (北斗市立浜分中) 中井 一夫 (道教育大学附属旭川中)	佐藤 昌彦 (道教育大学札幌校教授) 泉 雄大 (稚内市立天北中教頭)	笠松 英治 (函館市立戸倉中)	林 弘実 (函館市立湯川中)
6	中学校 ひびきあうとき	眞鍋 幸恵 (上士幌町立上士幌中) 平井 歩 (札幌市立啓明中)	花岡 康成 (今金町立種川小教頭) 西岡 裕英 (渡島教育局 義務教育指導班指導主事)	岩館こずえ (函館市立亀田中)	米田 康子 (函館市立潮見中)
7	中学校 つながるとき	富尾 拓 (道教育大学附属函館中) 山崎 正明 (千歳市立北斗中)	仲井 靖典 (函館市立凌雲中教頭) 佐々木 宰 (道教育大学釧路校准教授)	三谷 龍司 (函館市立北中)	長峰 詠子 (函館市立西中)

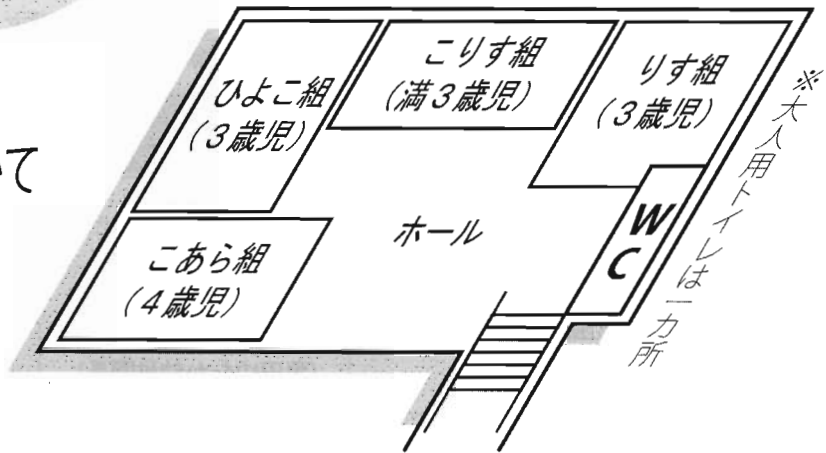
第60回全道造形教育研究大会函館大会 会場案内図

会場：太陽の子幼稚園

1階

※ 公開保育について

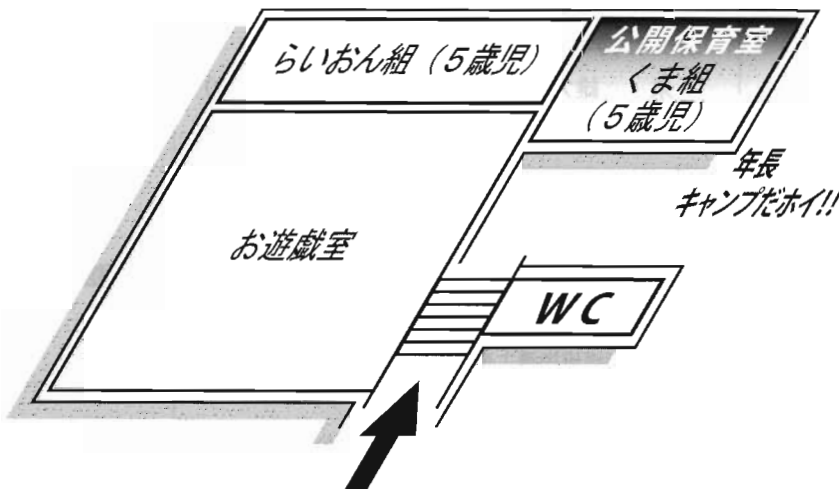
…朝、受付後
全体会終了次第
幼稚園バスにて
太陽の子幼稚園へ
移動



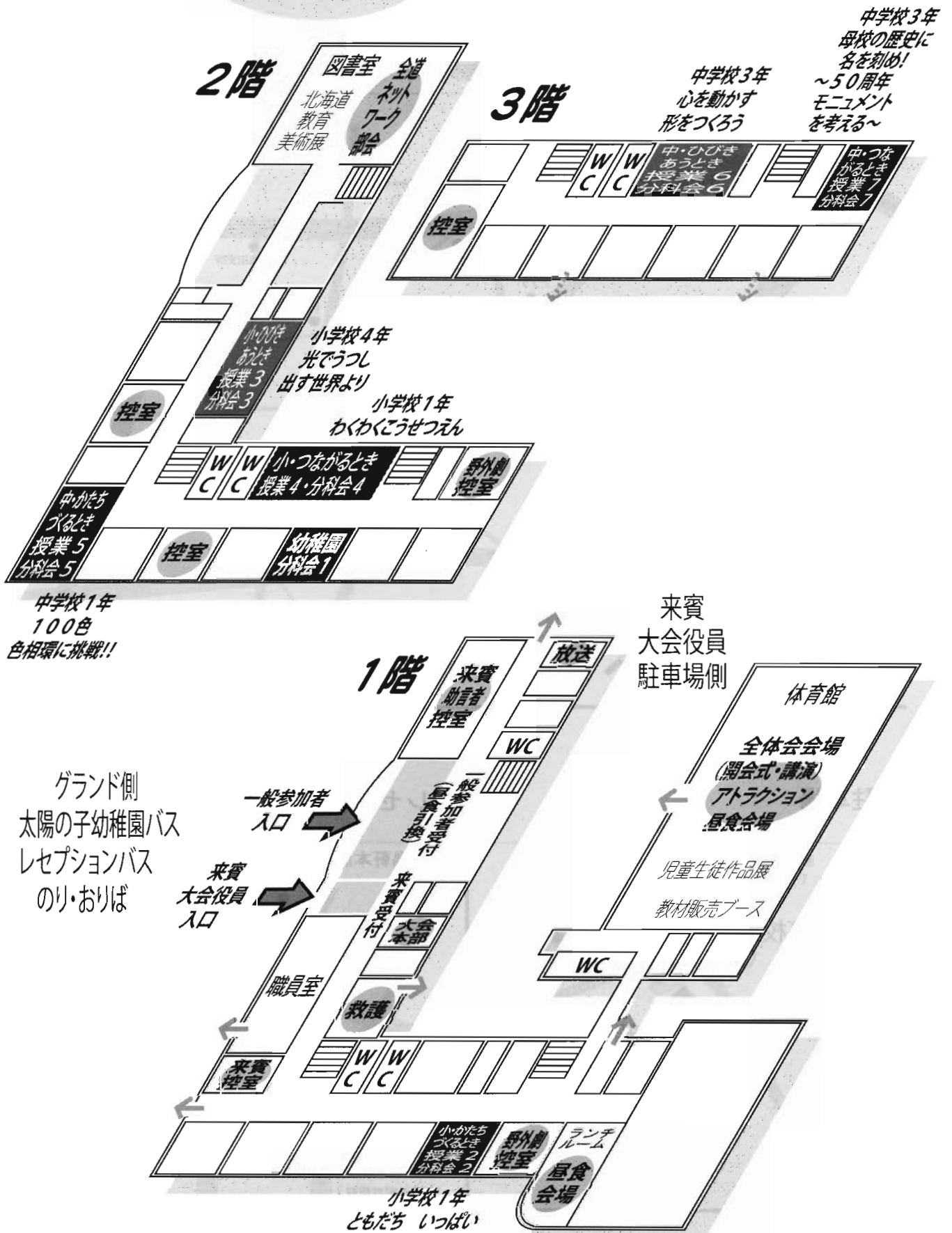
2階

※ 講演会・分科会について

…公開保育の後
太陽の子幼稚園から
バスで
昭和小学校へ
移動

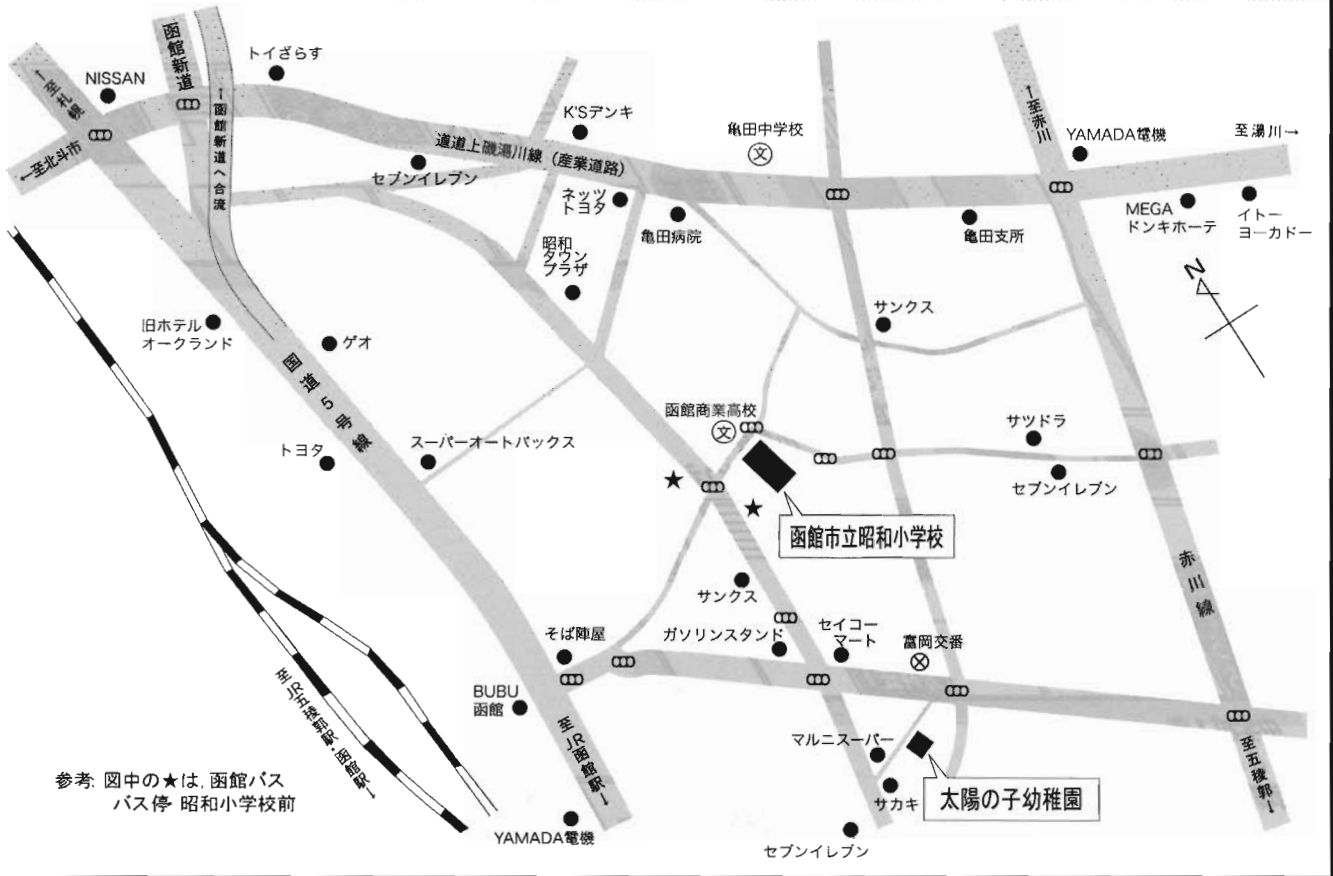


会場:函館市立昭和小学校

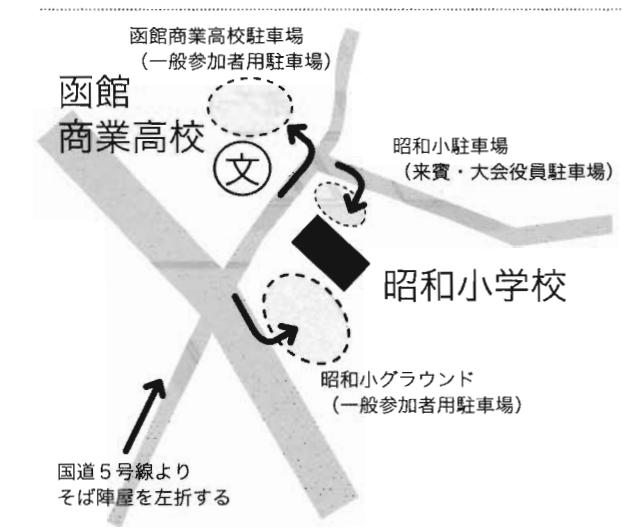


大会会場・レセプション会場 周辺マップ

大会会場 函館市立昭和小学校 〒041-0812 函館市昭和1丁目5番5号 TEL.0138-41-4964 FAX.0138-41-4946
 太陽の子幼稚園 〒041-0811 函館市富岡町1丁目42番12号 TEL.0138-41-1929 FAX.0138-41-2278



駐車場



レセプション会場

※昭和小学校より無料送迎バスが出ます
 五島軒本店 函館市末広町4番5号 TEL.0138-23-1106

